

北斗市観光振興プランⅡの策定にあたって



北斗市は、平成28年3月の北海道新幹線開業を見据え、平成24年度を「観光振興元年」と位置付け、「きじひき高原の整備活用」、「桜回廊構想の推進」、「体験型観光の振興」、そして「スポーツ合宿の誘致」の4本柱を中心とした「北斗市観光振興プラン」を策定し、市民皆さまのご協力を得ながら、官民一体となって、観光による経済・地域の活性化に取り組んで参りました。

おかげさまで、北海道新幹線開業年は、観光入込客数が過去最高の123万7千人となり、あらためて高速交通体系の整備や、メディアで取り上げられる宣伝効果による地域経済に及ぼす影響の大きさを実感したところです。

新幹線開業から早いもので3年が経過し、この度、新幹線開業以降の新函館北斗駅周辺の状況変化をはじめ、サッカー・ラグビー場の整備、外国人観光客の入込の増加など、本市を取り巻く状況の変化を踏まえた将来の観光像を掲げるため「北斗市観光振興プランⅡ」を策定させていただきました。

観光の振興は、人、モノ、情報の交流を活発化させ、経済や地域の活性化に「つながる」リーディング産業で、旅行・宿泊・輸送・飲食・お土産、体験業などの既存の産業を連鎖させながら、それぞれの可能性を引き出す「複合産業づくり」のツールだと考えます。

私は市政をお預かりしてから、一貫して申し上げております「まちづくりの理念」として、経済・社会・環境を巡る広範な課題に統合的に取り組むための持続的な開発目標「SDGs（エスディーゼズ）」がございます。

市民、民間、行政が輪でつながり一体となって、賑わいを点から面に「広げる」、新たなアイデアによる観光客の受入体制を「創る」ことで、一過性なものではなく、継続的かつ持続的な回遊性ある観光のまちづくりを目指して参りたいと考えております。

今後、この計画に掲げた観光のまちづくりの実現に向けて、皆さまと一緒に取り組んでいきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。